



埋文だより

第17号

平成10年7月31日発行

上野原遺跡復元公開20万人達成



県立埋蔵文化財センターは、国内で「最古・最大級」の定住集落として全国的に有名になった上野原遺跡を昨年5月27日から現地公開し、9月からは隣接地に遺構や家屋を復元し、公開を始めました。

現地公開の当初から多くの県民の関心を呼び、県内外各地から多数の方が見学に來られました。

その結果、公開開始以来11か月後の本年4月28日(火)にはついに20万人を突破しました。

当日は多くの団体見学があり、午前中に來場した国分市立国分南中学校2年生(田村美佳さん)が20万人目となりました。

今後も、來場される方に楽しく見学していただけるよう整備や工夫をしたいと思えます。

目次

頁

- ・上野原遺跡復元公開20万人達成 …… 1
- ・上野原遺跡出土遺物、重要文化財に指定 …… 2
- ・上野原遺跡展示館リニューアル …… 4
- ・免題遺跡紹介
- ・桐木遺跡 …… 5
- ・あなたも、遺跡を …… 6

のぞいてみませんか?



鹿児島県立埋蔵文化財センターの見学は、
日曜日・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、
入館料は無料です。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

上野原遺跡出土遺物、重要文化財に指定！

上野原遺跡第3工区から出土した遺物約10万点のうち767点が、重要文化財「鹿児島県上野原遺跡出土品」として平成10年6月30日に指定されました。ここは、平成3年から7年まで発掘調査が行われた結果、7500年前（縄文時代早期後葉）の多種多様な遺物が出土、発掘調査時から注目されていました。

これらの出土品から考えると上野原縄文人は、用途に応じて多種類の土器や石器を使い分けて豊かな生活を営み、土偶や華麗に装飾した耳飾りなどの土製品や石製品を用いて祭りや儀式を行っていたことが想像されます。このような出土遺物は、これまでの縄文文化のありかたからは考えられないもので、縄文文化を考え直す貴重な資料となっています。

ところで、縄文時代のはじめ頃の人々は、煮炊き用の深鉢形土器だけを使っていたと考えられていますが、上野原遺跡では壺形・鉢形・小形土器など多種類の土器が出土しています。特に弥生時代以降に貯蔵用として使われた壺に形がよく似た壺形土器などは、その用途が非常に注目されます。さらに、多様な多数の石器のうち、磨製石斧には形態や大きさなど様々なものがありますが、これらは伐採用や加工用など用途に応じて使い分けられた多彩な技術と文化が存在したと考えられます。なかでもノミ状の石斧は、高度な木工技術があったことを示しています。これらのことから、上野原縄文人は、「森と共存」し、豊かな文化を営んでいたと思われる。

土坑内に対となって埋納された2個体の壺形土器を含め、限られた区域内に13個の壺形土器がほぼ完全な形で出土していますが、この場所は祭りや儀式の場と考えられ、大変貴重な発見として注目されています。

また、日常生活に使われたと考えられる深鉢形土器や壺形土器は華麗な文様を施しており装飾性に優れています。また、日常の生活具とは考えにくい形の変った異形石器と呼ばれる石製品は、祭りや儀式に使われたと考えられています。

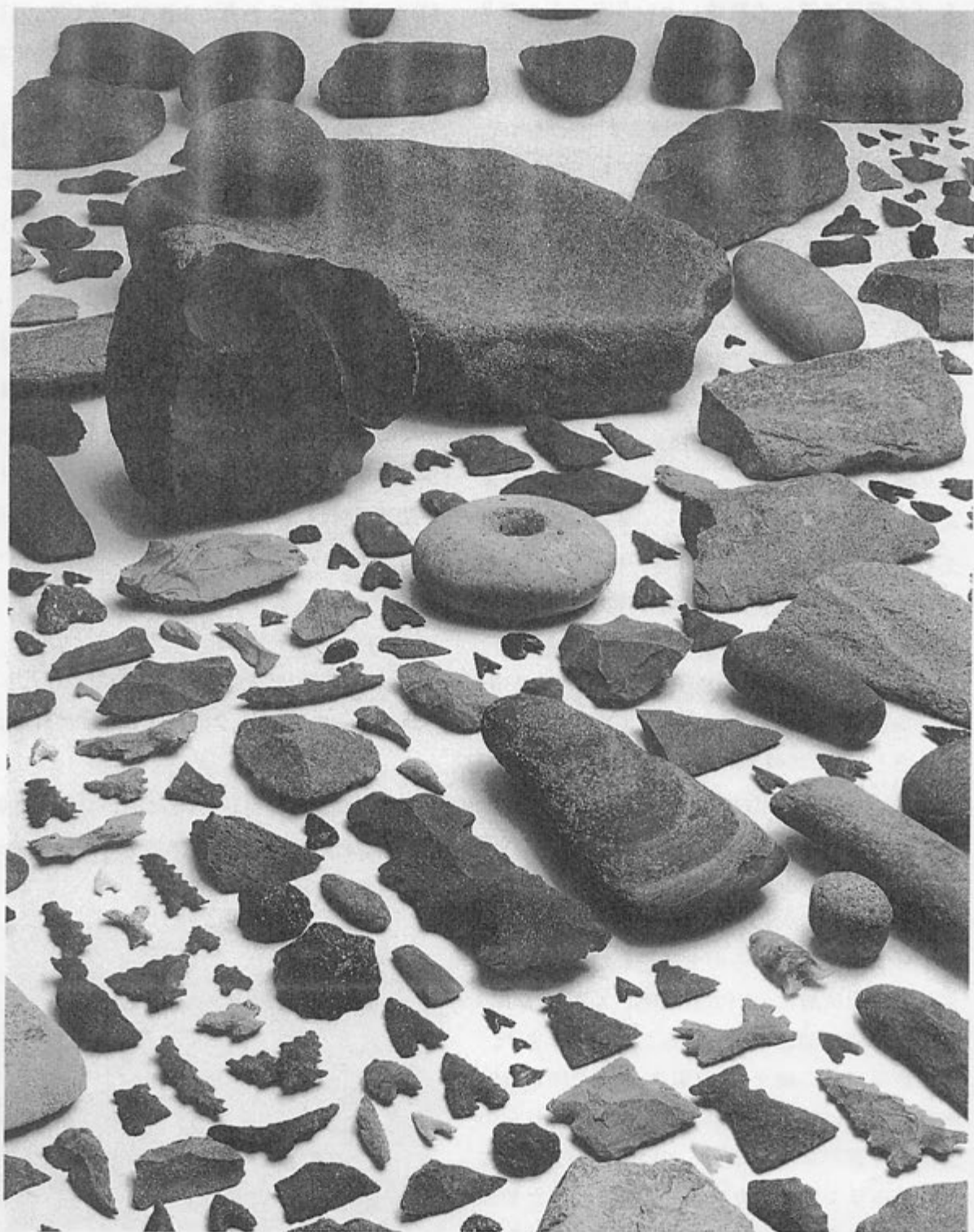
以上のように上野原遺跡の多様な出土遺物は、当時の人々が豊かな感性や、高い精神文化をもっていたことをうかがわせる貴重なものです。



多種多様な器の数々



耳飾り（7,500年前のピアス）



石の道具の数々かずかず（大小を比べてください）

上野原遺跡展示館リニューアル

リニューアル展示

上野原遺跡展示館では、この4月から展示内容を「上野原遺跡への軌跡」というタイトルでリニューアル展示を行っています。縄文時代の夜明け草創期(約12,000年前)から上野原の時代(早期前葉・約9,500年前)に至るまでを県内の主な遺跡の出土品や写真を通して紹介しています。

縄文時代は土器と弓矢が使用され始める時代ということから、草創期を「土器の誕生」「槍から弓矢へ」というテーマで展示しています。

「土器の誕生」では、中種子町三角山I遺跡出土の完全な形に復元された土器や、加世田市志風頭遺跡出土土器の写真パネルなどを通して発生時の土器を紹介しています。「槍から弓矢へ」では、ナウマンゾウなど大きな動物をとらえる旧石器時代の槍から、小さな動物を飛び道具である弓矢で射止める縄文時代の石鏃への変化を示しています。

また、この頃の生活の様子を石器や鹿児島市掃除山遺跡の写真パネルを通して説明しています。さらに、この時期の三角山I遺跡で見つかった集石の実物も今回展示しました。

南九州で縄文時代の初めごろ起こった最大の自然災害は桜島の大噴火です。約11,500年前にあったこの噴火の火山灰が薩摩火山灰と呼ばれています。このころの上野原台地周辺の地形変化や火山灰層についても説明しており、薩摩火山灰は袋に詰めて持ち帰ることができます。

上野原遺跡の縄文ムラ(集落)と同じ頃には、南九州各地に縄文ムラができますが、これらの遺跡を写真パネルで紹介しています。また、これらのムラで使われた貝殻で文様をつけた筒形の土器を多く並べてあります。縄文人の造形の見事さを感じることができます。連穴土坑もこの時期の南九州を特徴づけるものですが、県内各地のものを写真パネルで紹介しています。

この頃の南九州では、みがいて作ったやじり

が多く使われていました。これまで、日本ではみがいて作ったやじりは弥生時代(約2,300年前)から出現すると考えられていました。打ち欠いて作った石器、みがいて作った石器を実物を見て比較してみましょう。

展示館内には暖かいところで育つ、照葉樹と涼しいところで育つ落葉広葉樹を置いてあります。樹種の違いをよく観察してみましょう。

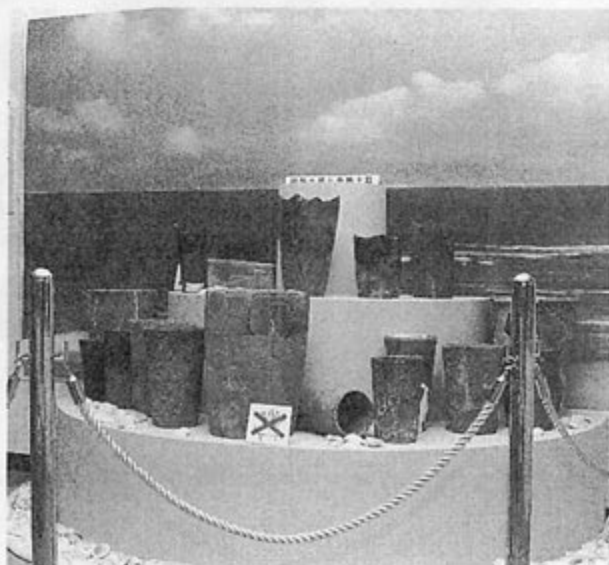
上野原遺跡常設展

上野原遺跡3工区出土の縄文時代早期後葉(約7,500年前)の遺物767点は国の重要文化財に指定されました(土偶や耳飾りは複製品を展示してあります)ので、現在は4工区の縄文時代早期前葉(約9,500年前)の出土品を中心に展示しています。

体験コーナー

以前からあった火起こしや模様をつけたりするコーナーに加えて、実際に土器片に触れるコーナーを設けました。

夏休みなどを利用し、見学においでください。展示内容は今後、9月と来年の2月に展示替えをする予定です。



発掘遺跡紹介(15)

多数の火山灰にはさまれた複合遺跡

桐木遺跡 《所在地：曾於郡末吉町》

桐木遺跡は、東九州自動車道建設に伴い、平成8年度から発掘調査を実施しています。

昨年度までの調査の結果、旧石器時代から中世までの複合遺跡であることがわかりました。

多数の火山灰層と遺物含包層

桐木遺跡では、旧石器時代から中世まで8枚の火山灰の堆積層がみられ、遺物の年代や前後関係の決定に役だっています。

今回、桜島から噴出したP11(約7,000年前)と呼ばれる火山灰(軽石)をはさんで上下から塞ノ神式土器が出土しました。上部からは貝殻文系の、下部からは燃糸文系の塞ノ神式土器が出土し、それらの前後関係が明らかになりました。



桐木遺跡の位置



桐木遺跡の土層柱状図・火山噴出物・出土遺物

また、薩摩火山灰(約11,500年前)の下層(X層)から出土した草創期の土器(隆起線文土器)は、これまで掃除山遺跡や椿ノ原遺跡など県内各地で出土している幅広の隆起線文土器とは異なり、細い隆起線文で土器の厚さも薄いものでした。このような隆起線文土器は、本県では初めての出土になります。

主な遺構

調理施設と考えられる集石遺構は縄文時代草創期と早期のものが、竪穴住居跡は縄文時代早期のものが発見されています。

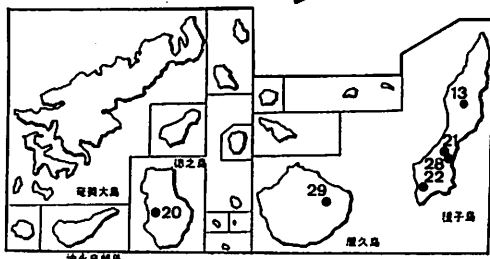
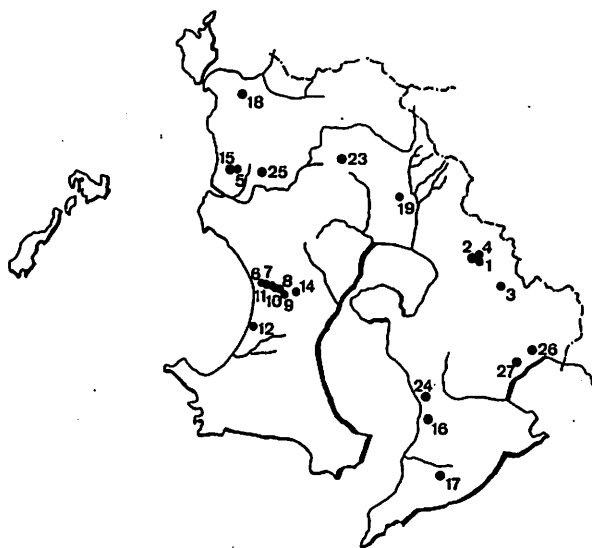


～あなたも遺跡をのぞいてみませんか？～

埋文センターがおこなっている発掘調査

遺跡名	所在地	調査期間	調査の種類
1 永 磯	福山町	5/6～3/31	全面調査
2 城ヶ尾	福山町	5/6～3/31	全面調査
3 桐 木	末吉町	5/6～3/31	全面調査
4 前原・和田	福山町	5/6～10/31	全面調査
5 前畑ほか	川内市ほか	5/6～11/2	確認・全面
6 市ノ原	東市来町	5/6～3/31	全面調査
7 向柵城跡	東市来町	5/6～9/25	全面調査
8 下永迫	伊集院町	5/6～7/3	全面調査
9 永迫平	伊集院町	5/6～7/3	全面調査
10 柳 原	伊集院町	7/6～10/30	全面調査
11 池ノ頭	東市来町	8/3～3/31	全面調査
12 農業センカ	金峰町	4/20～3/31	全面調査
13 三角山Ⅰ・Ⅱ	中種子町	5/6～9/25	全面調査
14 瀬戸頭A・B	伊集院町	5/6～9/18	全面調査
15 佐 原	川内市	6/1～6/5	確認調査
16 出口ほか	根占町	4/20～7/17	確認調査
17 ホケノ頭	田代町	4/20～4/28	確認調査
18 道下段	高尾野町	5/18～6/26	全面調査
19 南十三塚原	溝辺町	5/18～5/29	全面調査
20 下原Ⅰ・Ⅱ	天城町	5/18～5/29	全面調査
21 須行園ほか	中種子町	6/29～7/17	確認調査
22 横 峯	南種子町	6/29～7/31	確認調査
23 寺屋敷ほか	薩摩町	7/13～7/31	発掘調査
24 輪呂ヶ尾	大根占町	7/21～7/31	確認調査
25 五 社	東郷町	6/8～6/26	確認調査
26 仕明ほか	有明町	8/10～9/11	確認調査
27 松ヶ鼻ほか	大崎町	8/17～9/18	確認調査
28 立 切	中種子町	8/17～9/11	確認調査
29 屋敷野	上屋久町	8/24～9/4	確認調査

※ 番号は下の地図の番号と一致



詳しい情報については、センターが行っている調査は当センターへ、センターが支援した調査は当該市町村へお問い合わせください。

平成10年度人事異動

◎転出者 (H10. 4. 1 付)

所 長 吉元 正幸(串木野高校 校長へ)
文化財主事 倉元 良文(県文化財課 文化財主事へ)
文化財主事 湯之前 尚(吉野中学校 教諭へ)
主 事 迫立ひとみ(県社会教育課 主事へ)

◎退職者 (H10. 3. 3 1 付)

文化財調査員 鎌倉 綾
文化財調査員 松崎 卓郎

◎転入者 (H10. 4. 1 付)

所 長 吉永 和人
(鹿児島中央高校教頭から)

主任文化財主事 青崎 和憲
(文化財課文化財主事から)

文化財主事 井ノ上秀文
(県総合教育センター主査から)

同 宮田 洋一
(柏原小学校教諭から)

同 上之園建二
(湯之尾小学校教諭から)

同 濱崎 一富
(西始良小学校教諭から)

同 溝口 学
(喜入小学校教諭から)

同 西郷 吉郎
(美山小学校教諭から)

同 大久保浩二
(兵庫県派遣 終了)

主 事 溜池 佳子
(北薩教育事務所主事から)

◎新規採用者 (H10. 4. 1 付)

文化財研究員 桑波田武志 文化財調査員 鷲尾 史子
文化財研究員 西園 勝彦 文化財調査員 川口 雅之
文化財研究員 横手 浩二郎 文化財調査員 大窪 祥晃

◎昇 任 (H10. 4. 1 付)

主任文化財主事 弥栄 久志(文化財主事から)
文化財主事 前迫 亮一(文化財研究員から)
文化財主事 前田 誠(文化財研究員から)

埋文だより 第17号

発行日：平成10年7月31日

編集・発行

鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-5652

鹿児島県始良郡始良町平松6252

TEL 0995-65-8787